

## 1. 総評

**(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】****【学校の現状】**

学級数19学級、児童数約630名の創立130周年を迎える歴史と伝統のある学校である。恵まれた教育環境を有効に活用し、保護者や地域の方々と共に教育活動の充実に努めている。

本校は、平成23年度全国小学校道徳教育研究会全国発表校、24年度区学力向上推進モデル校、25年度都OJT推進モデル校、26年度都校務改善推進事業、28・29年度都伝統・文化教育推進校と、伝統的に研究等に取り組んでおり、これらの研究の成果を生かして教員一人一人の指導力を高めるとともに、学校全体の組織力も高め、児童の発達段階に応じた6年間の系統的な指導に取り組んでいる。

**【前年度の成果と課題】****重点的な取組事項－1「学力向上」**

## (1) 成果

・研修等による授業力向上と「足立スタンダード」に基づく授業実施。区学力調査通過率81%達成。

## (2) 課題

・児童が自分の考えをもち、的確に文章表現する力を育てることのできる授業の実施。

**重点的な取組事項－2「幼保小中連携の充実」**

## (1) 成果

・次期学習指導要領を見据えた分科会による授業実践。園児・児童の直接交流の実施。

## (2) 課題

・小中の指導法の共通理解と共通実践の推進。・幼保小連携の計画的な取組の推進。

**重点的な取組事項－3「安全・安心な学校生活の充実」**

## (1) 成果

・「あいさつキラキラ運動」の地域への発信。・学校ホームページの毎日更新や学校配信メールの活用。  
・特別支援教育や教育相談的手法に関する研修会の実施による教員の実践力の向上。

## (2) 課題

・児童主体によるいじめ防止の取組。・授業規律の定着。

**(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要****重点的な取組事項－1「学力向上」**

- (1) 授業力の向上 ①授業検討会の開催 ②指導法研修会の開催 ③若手研修会の開催  
 (2) 補習体制の充実 ①ポートフォリオの活用 ②定着度確認テスト ③補習体制の充実  
 (3) 家庭での学習習慣の確立 ①家庭学習の実態把握と定着 ②望ましい生活習慣の確立 ③系統的な家庭学習課題の設定

**重点的な取組事項－2「幼保小中連携の充実」**

- (1) 中学校教員と連携した授業改善 ①教育課題別分科会による協議 ②授業実践と協議 ③望ましい学習・生活習慣の確立に向けた意見交換と共通ルールの明文化  
 (2) 幼保園と連携した円滑な小学校生活のスタート ①連携協議会での課題の共通理解と課題解決に向けた共通実践 ②園児の小学校体験の充実 ③小学校スタートカリキュラムの実施と改善  
 (3) 児童と生徒・園児との交流 ①6年生による中学校の授業・部活動体験 ②1年生による園児の学校生活体験支援 ③中学生による夏季補習教室の学習支援

**重点的な取組事項－3「安全・安心な学校生活の充実」**

- (1) いじめの防止 ①SC と連携した相談受付体制 ②児童のいじめ防止等に向けた児童主体の取組 ③教職員の教育相談スキル向上等を目指した研修 ④QU調査結果に基づく学級経営の改善  
 (2) 保護者・地域と連携した教育活動の充実 ①保護者・地域と連携した地域清掃活動 ②全学年児童参加の「あいさつキラキラ運動」 ③地域や保護者等の協力による体験教室 ④読書月間等における図書館支援員や図書ボランティア等と連携した読書指導  
 (3) 保護者・地域への情報発信の充実 ①不審者情報や感染症、自然災害等に対する対策等をメール配信 ②学校ホームページの毎日更新による教育活動の周知 ③保護者・地域に対する授業や学校評価に関するアンケート結果の公開

### (3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項－１「学力向上」

##### (1) 成果

- ・若手教員研修や教科指導法研修、小中連携の研究授業等の授業力向上に向けた各取組を計画的に実施し、授業力向上と、教科指導法の理解促進、足立スタンダードに基づく授業実施の拡充を図ることができた。
- ・「パワーアップタイム」での校内で統一した音読教材の導入や基本計算の習熟により、基礎・基本の定着を図ることができた。また、「そだち指導」や「ほうかごタイム」によって、つまづきの解消を図ることができた。

##### (2) 課題及び解決の方向性

- ・「足立スタンダード」による授業展開についての共通理解・共通実践が浸透してきているので、その質の向上に向けてさらに工夫したい。特に「書く力」や「考える力」の育成に向けた授業実践を充実させたい。
- ・各教科の授業の中で、「書く指導」を意識して取り入れ、自分の考えを適切に表現する力を育成したい。

#### 重点的な取組事項－２「幼保小中連携の充実」

##### (1) 成果

- ・小中連携では、新学習指導要領を視野に入れた分科会編成により研究授業を実施し、「相互の教育内容と指導法に対する理解促進」「指導上の課題の共有」等を図ることができた。
- ・幼保小連携では、各校での授業・保育参観を通じて、接続を意識した実践について理解を深めることができた。

##### (2) 課題及び解決の方向性

- ・小中連携では、分科会内でのテーマ設定を工夫し、協議内容を充実させたい。
- ・幼保小連携では、直接交流の充実に向けた事前の共通理解や打ち合わせ等を計画的に行いたい。

#### 重点的な取組事項－３「安全・安心な学校生活の充実」

##### (1) 成果

- ・「あいさつキラキラ運動」や「地域清掃」等によって児童同士の良好な関係作りや地域と連携した取組の推進を図ることができた。特に、「あいさつキラキラ運動」は、地域の方々へのあいさつの励行にも努め、地域の方々から温かい声援を頂くなど、地域との交流がよりよい方向に進んでいる。
- ・学校ホームページの毎日更新や学校配信メールの効果的な配信により、教育活動の周知と啓発等を図った。
- ・スクールカウンセラーと担任との連携を強め児童や保護者の悩み・相談受付体制の充実を図るとともに、特別支援教育や教育相談的手法に関する研修会を実施し、教員の実践力を高めることができた。

##### (2) 課題及び解決の方向性

- ・児童主体によるいじめ防止の取組や地域への働きかけを推進したい。
- ・授業規律の定着に不十分な部分が見られる。「梅島ミニマム」等の見直しを図り、実践面での徹底を図る。

### (4) 保護者や地域へのメッセージ

平成30度は、130周年という記念の年として、PTAや地域の皆様から多くのご支援をいただき、児童にとって心に残る記念行事等を開催することができました。厚く御礼申し上げます。

また、子どもたちの一生懸命活動する姿やあいさつの声に対して、今まで以上に温かなご支援とご協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。これらのご支援・ご協力が児童の心身の健やかな成長にさらに強みに結び付くように、学校は教員の指導力の向上や授業改善にさらに努めてまいります。

保護者の皆様におかれましては、児童のことで気が付かれたことやご相談等、学校にお寄せいただければと思います。児童の健やかな成長を目指すパートナーとして、共に連携しながら対応してまいりたいと思います。また、ご家庭におきましても、基本的な生活習慣の育成等、学校での教育活動が充実する基盤づくりにご協力をお願い申し上げます。

地域の皆様におかれましては、地域での児童の様子で気が付かれたことがありましたら、学校までお知らせください。適切な指導をしてまいります。また、状況によって指導が必要な場面がありましたら、地域の皆様のお立場からご指導いただければ幸いです。不審者やいじめ等、児童の安全を脅かす状況がありましたら、学校は関係機関とも連携しながら速やかに対応してまいります。地域の皆様の多くの目が児童の安全を確保する上で非常に有効です。児童の見守り等にご協力をお願い申し上げます。

## 2. 平成30年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎：十分に達成 ○：おおむね達成 △：達成せず ●：課題が残る＞

### 重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学力向上 校内学力定着度確認テストにおける通過率：63%(1月実施)	区学力調査 通過率 85%	区学力調査 通過率 79%	目標を達成することはできなかった。個に応じた支援が必要である。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

### 重点的な取組事項－2

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
幼保小中学校生活への円滑かつ確実な接続	「目標実現に向けた取組み」の達成基準：完全実施	どの取り組みも計画的に実施できた。	来年度も内容の充実を図っていきたい。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
1 中学校教員と連携した授業改善	全体会及び指導案検討や授業検討会：年6回	①教育課題に基づく分科会構成による小中一貫教育を目指した協議の実施 ②教育課題に基づくテーマに基づいた授業実践と協議の実施 ③学習・生活習慣の確立に向けた意見交換	3小1中による連携2年目として、計画的に実施できた。また、生活指導面での共通理解を図り成果物にまとめることができた。	相互の授業交流などを図り、小中それぞれの教員のもつよさをさらに共有できると、児童・生徒にとって価値ある連携となる	◎
2 幼保園と連携した円滑な小学校生活のスタート	幼保小連携に関するアンケート：肯定的回答80%以上	①連携協議会での学習や生活指導に関する課題の共通理解と課題解決に向けた共通実践 ②園児の小学校体験の充実 ③小学校スタートカリキュラムの実施と改善	保育園の教職員による小学校の授業の参観は、計画的に実施できた。小学校からの保育参観は不十分だった。	小学校からの保育参観については、長期休暇における参観を計画的に実施したい。	○
3 児童と生徒・園児との交流	具体的な方策：完全実施	①6年生による中学校の授業・部活動体験 ②1年生による園児の学校生活体験支援 ③中学生による夏季補習教室の学習支援	中学生による補習支援や中学校生活体験は中学校の協力により充実した。園児との直接交流は、今年度4園との直接交流を実施することができた。	保育園・幼稚園との直接交流を充実させることができる関係を築けた。今後もこの関係を保ちたい。	◎

重点的な取組事項－3

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境の確立	学校評価アンケート「子供にとって安全・安心な学校」：肯定的評価 98%以上	学校評価アンケートで 98%の評価をいただいた。	いじめの未然防止と早期対応について、今後も児童の SOS を早い段階で受け止め対応したい。また、児童が SOS を出しやすい環境を整えたい。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
1 いじめの防止	具体的な方策：完全実施 学校評価保護者アンケートの「児童の規則正しい生活、規範意識の向上、集団の秩序を守るような生活の指導」に対する肯定的回答が 98%以上	①スクールカウンセラーと連携したい いじめ等の悩み相談受付体制の充実 ②児童の人権意識やいじめ防止の意識向上を目指した児童主体の取組の充実 ③教職員の人権意識やいじめ防止に向けた意識向上と教育相談スキル向上を目指した研修の実施（年2回以上） ④Q U 調査の実施と結果に基づく学級経営の改善	スクールカウンセラーとは、直接の報告のほか文書での報告も通じて密に連携を図ることができた。児童・保護者も安心して相談できている。児童主体のいじめ防止の取組は実施できていないが、あいさつキラキラ運動や学校マスコットなど、楽しい学校生活に向けた取り組みは充実した。スクールカウンセラーによる研修の実施などにより教育相談スキルの向上を図ることができた。	児童主体の取組については、児童に深く考えさせながら形にとらわれないものを実施できるようにしたい。	○
2 保護者・地域と連携した教育活動の充実	具体的な方策：完全実施	①保護者・地域と連携した地域清掃活動の実施（6月） ②保護者・地域との連携による全学年児童の「あいさつキラキラ運動」を実施（年5期間） ③地域や保護者等の協力による体験教室を各学年の学習活動に効果的に導入 ④図書館支援員および図書ボランティア等と連携した日常的な読書指導	6月の地域清掃は全校児童と保護者・地域の方々が協力して実施できた。あいさつキラキラ運動は、地域の方々に対してもあいさつができるようになってきた。地域の方々を中心とした講師による日本の伝統文化体験を充実させることができた。図書館支援員とボランティアの連携による読書に親しむ環境づくりが充実した。	あいさつキラキラ運動は、本校の特色ある教育活動として今後も全校児童参加のもとで実施していきたい。また、伝統文化体験も本校の特色ある教育活動として、講師の先生方との関係を保って充実を図りたい。	◎
3 保護者・地域への情報発信の充実	具体的な方策：完全実施	①不審者情報や感染症、自然災害等に対する対策等をメール配信システムして効果的に配信 ②学校ホームページの毎日更新による	学校配信メールを活用し、タイミングよく情報を発信することができた。学校ホームページの更新に努めた。	ICT のツールを活用し、情報発信を今後も充実させていきたい。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
		教育活動の周知 ③保護者・地域に対する授業や学校評価に関するアンケート結果の公開（3月）			

### 3. 学校活動全般について

児童の知・徳・体のバランスのとれた成長のために、教職員は自己の指導力向上とともに学校全体で協力して教育活動の充実に努力している。また、保護者や地域が大変協力的であり、児童のために様々な支援を積極的に展開して下さっている。

学区域外からの入学希望者も多いが、本校の選択理由が環境や施設面だけではなく、教育活動の内容や質も大きな理由となるように、教育活動のさらなる充実に向けて努力していきたい。

また、学力向上はもとより、体力向上に向けても、日常的な体育授業の改善・充実を中心とした取組を工夫していきたい。

学力向上の部分では、次期学習指導要領で求められている資質・能力や、自分の考えを的確に書くことのできる力を育成するために、授業改善にさらに取り組んでいきたい。

本校の教育活動を充実させるためには、「あたりまえのことをあたりまえに」できることだけの基礎的・基本的な能力、何事も最後までやり遂げる根気強さや集中力なども児童に育てていくことが必要である。

そのような力を家庭と連携しながら育てるとともに、教員の授業改善と指導力向上を図っていきたい。

## 「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立梅島小学校 学校長 江原 敦史

		アクションプラン	達成目標(=数値) 〈いつまで・何を・どの程度〉	具体的な取り組み内容 〈誰が、何を、どのように〉	実施結果	コメント・課題	達成度 (◎○△●)
1	継続	「足立スタンダード」に基づく授業の実施	次年度の区学力調査結果の通過率85%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「めあて」と「まとめ」を明確にした授業を担当が実施する。</li> <li>・「めあて」は、その授業で身に付けさせたい力を授業の中で示す。</li> <li>・「まとめ」は、児童が自分の言葉で書けることを目指して段階的に指導する。</li> </ul>	区学力調査の通過率 79%	「めあて」「まとめ」を意識した授業は実施できている。今後は、「めあて」や「まとめ」を子ども自ら考え、主体的に学習に取り組めるよう、授業改善を図りたい。	○
2	継続	基礎計算力の実態把握とそれに基づく反復学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握テストで全員が正答率100%</li> <li>・次年度の区学力調査結果の通過率85%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年および当該学年で最低限身に付けるべき基礎計算力を精選した問題を掲載したテストで把握する。</li> <li>・個人および学級の課題を把握し、朝のパワーアップタイム、授業冒頭の5分間、放課後補習等で弱点補強、つまずきの解消に向けた指導を行う。</li> </ul>	区学力調査の通過率 79%	学校で統一した取り組みとしては実施できなかった。年度当初に学校全体で計算力の把握の機会を設け、年間を通した取り組みとして実施できるようにしたい。	○
3	継続	パワーアップタイムおよび国語の授業での音読練習	次年度の区学力調査結果の通過率85%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回のパワーアップタイム(火曜)に10分間の音読を実施</li> <li>・国語の授業の冒頭5分を音読指導にあてる。</li> </ul>	区学力調査の通過率 79%	パワーアップタイムでは、各学年の児童の実態に応じて柔軟な課題の設定ができるようにしたい。国語の授業では、授業内での基礎・基本の習熟を図る時間を確保したい。	○
4	継続	自主学習ノート		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習で「自主学習ノート」を課し、主体的な学習姿勢の定着を目指すとともに、児童の学習への興味・関心・意欲を高める。</li> </ul>		充実したノートの紹介の機会を設けている学級があるので、その取り組みを全校に広めたい。	○
5	継続	朝学習 (パワーアップタイム)	ミニテスト等での正答率90%	<b>【指導者体制】</b> 担任(低学年は学習支援員も) <b>【内容とねらい】</b> 国語 音読＝脳の活性化、文字への慣れ 読書＝読書への興味・関心・語彙力向上 算数：百ます計算等＝基本的な計算力の定着		各学年で実態に応じて実施できた。今後も計画的に実施したい。	○

6	継続・改善	放課後補習教室	対象児童全員が目標値を通過	<b>【指導者体制】</b> 担任（低学年は学習支援員も） <b>【内容とねらい】</b> ・次へのステップ、ベーシックドリル、当該学年のドリル ・個々のつまずきに応じて課題を指示し個別指導	次年度4月の区学力調査で検証	今後も児童の抽出をていねいに行い、つまずきに応じた指導を実施する。	○
7	継続	サマースクール	確認テストにおける正答率の増加（10%増加を目安とする）	<b>【指導者体制】</b> 担任+学習支援員+専科+中学生ボランティア <b>【内容とねらい】</b> ・次へのステップ、ベーシックドリルを用いて少人数指導を行い、複数の教員で個別指導	国語で10.6%、算数で23.3%の増加を確認	今後も児童の抽出をていねいに行い、つまずきに応じた指導を実施する。	○
8	継続	SPタイム	確認テストにおける正答率の増加（10%増加を目安とする）	<b>【指導者体制】</b> 担任（低学年は学習支援員も加わる） <b>【内容とねらい】</b> ・国語：短作文（原稿用紙を用いた100文字短作文） → 計画的に課題を設け、指導事項を絞る。 ・算数：ドリル → 単元学習における定着状況に応じて補習	国語で10.6%、算数で23.3%の増加を確認	国語の短作文指導は、授業の中で取り組める体制に移行する。算数は、朝のパワーアップタイムや授業、補習の中で取り組める体制に移行する。	○